

人と人、心と心、
夢と夢を
つなぐまち

うるま

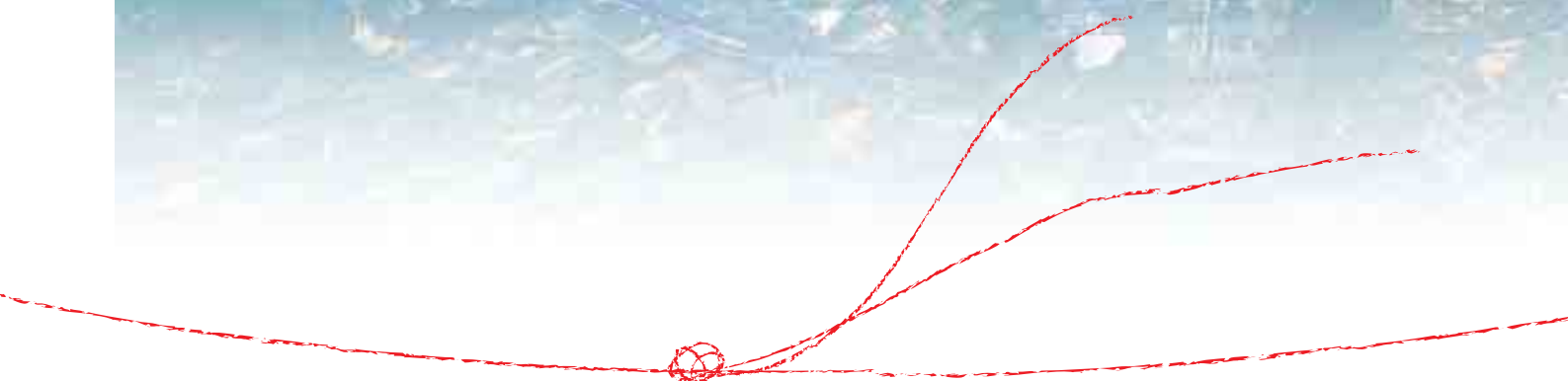


since April, 1st, 2005.

人と人がつながって家族になる。
家族と家族がつながるから街ができる。
「うるま市」は
ひとつひとつの思いをつないで、
誕生しました。

つなぐ。

うるまを意味する
「サンゴ礁に囲まれた島」にふさわしく、
海に面した美しいまち並みから
沖縄の美しい心を発信し、
新しい未来へ飛躍します。







うるま市長

知念恒男

Tsuneo Chinen

プロフィール

氏 名 知念 恒男（ちねん・つねお）
居 住 地 うるま市字具志川
生年月日 昭和15年9月11日生
略 歴 平成9年3月沖縄国際大学短期大学部国文科卒業
昭和45年4月から旧具志川市議に6期連続当選
その間、教育民生委員会委員長、市議会議長歴任
平成10年9月22日～平成17年3月31日まで
旧具志川市長（2期）
平成17年5月15日～
うるま市長就任
趣 味 土いじり、樹木鑑賞

「はじめまして、うるま市です」

沖縄本島の中部東海岸に位置するうるま市は、平成17年4月1日、隣接する具志川市、石川市、勝連町、与那城町が合併し、人口約11万6千人、面積86.00平方キロメートルのまちとして産声をあげました。

本市は、世界遺産の勝連城跡をはじめ貴重な歴史遺産や文化財、各地域で永年培われてきたエイサーや闘牛、獅子舞など数多くの伝統文化が保存され受け継がれています。

さらに、海中道路や津堅島など多くの観光レジャーに適した海浜を有し、自然と文化を生かした長期滞在型観光の構築に取り組み、沖縄県の中核都市としてさらなる発展に向けたまちづくりを進めています。

国や地方を通じた財政状況の悪化、少子・高齢化の進展、住民ニーズの高度・多様化など、激動する時代に市政を運営することとなりましたが、本市では行財政の環境変化に伴う現状をしっかりと見据え、新しい行政サービスのあり方を市民の皆さまと共に考え、市民と行政が協働するまちづくりを目指しています。

そのためには各地域で築いてきた「歴史と伝統文化、民意」を尊重し、「市民・地域の個性が輝き」合併して良かったと実感でき、子々孫々が誇れる「うるま市」づくりに積極的に取り組んでいきます。

この市勢要覧では、「人と人、心と心、夢と夢をつなぐまち」をテーマに、各地域の歴史・文化・伝統をつなぎ融合することで新たな未来へ飛躍する本市の姿を紹介しています。ご一読いただき、うるま市への理解と関心を深めていただければ幸いです。

Uruma City, located along the eastern coastline of the central region of mainland Okinawa, was born on April 1st, 2005 through the merger of four municipalities-Gushikawa City, Ishikawa City, Katsuren Town and Yonashiro Town. Its population is approximately 116,000 and land area is 8600 m².

The city is home to many invaluable historical and cultural heritages including the Katsuren Castle Remains, a World Heritage site, and also to numerous traditional cultures such as Eisa dance, bullfighting, and lion dance, which have been nurtured in each of the four former municipal regions and passed on for generations.

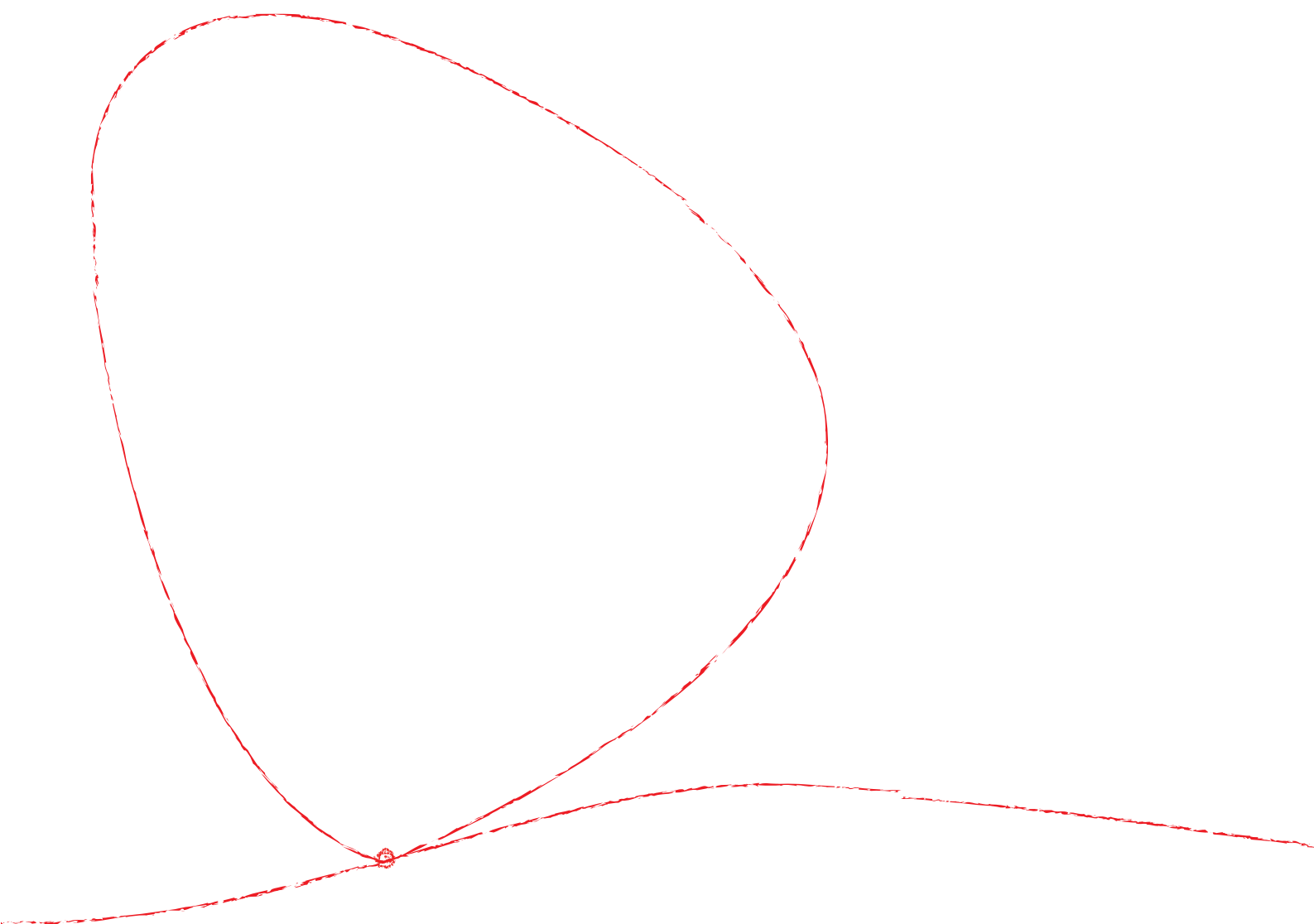
Having the sea, beaches, and other resources suitable for tourism and leisure activities, such as Sea Road (Kaichu-doro: the Road Through the Sea) and Tsuken Island, Uruma City is building its tourism for longer stays by utilizing its rich nature and diverse culture, to develop further as one of the major cities in Okinawa Prefecture.

We live in a tumultuous time-worsening fiscal conditions at the national and regional levels, declining birth rates, aging of population, and the needs of people are varying like never before-but Uruma City clearly sees its position in the midst of the changes to administrative and fiscal conditions. The city is committed to work with its citizens to develop a new form of administrative services that benefits the interests of all.

We will do this by paying respect to the history, traditional culture, and will of people in each of the four former municipalities, which have been formed over many years; only then the people will acknowledge the merger as a successful one, one that preserves the distinct colors of the regions and their people. We fully intend on building an Uruma City that people can be proud of for generations to come.

This administrative guide introduces Uruma City in its entirety under the theme "Linking person to person, heart to heart, and dream to dream", a city that looks to a brighter future by integrating the history, culture, and tradition of the former municipalities.

It is with a genuine pleasure that we introduce this guide in the hopes that it will increase understanding of our city.

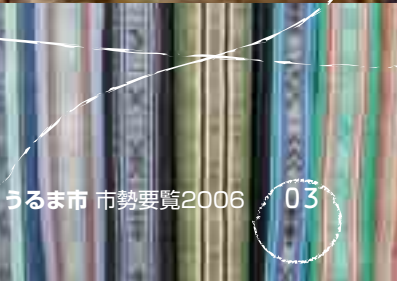


C O N T E N T S

<i>All About Uruma City</i>		
うるま市のなりたち		04
沿革／位置・地勢／歴史／イラストマップ／史跡・遺跡・文化財／うるま人物伝		
<i>[Chapter 1] Special Article: Linking People for a Brighter Future</i>		
【第一章】 特別企画「人つなぐ未来へ」		15
山学校で教える先生／マールン船は親子4代をつなぐ夢の船		
<i>[Chapter 2] Nature / Leisure / Culture / Festivals</i>		
【第二章】 自然・レジャー・文化・まつり		23
人と自然の調和／レジャー施設／エイサー・獅子舞／各地のまつり・他		
<i>[Chapter 3] Specialty goods</i>		
【第三章】 自慢のうるま産		39
「匠の技・キラリ」「愛情いっぱい」		
<i>[Chapter 4] EM Project</i>		
【第四章】 EMプロジェクト		45
EMとは／各取り組みについて		
<i>[Chapter 5] Building People for the Future</i>		
【第五章】 未来を担う人づくり		49
学校教育／社会教育／地域文化／保健医療・福祉		
<i>[Chapter 6] Creating an Environment for Comfortable Living</i>		
【第六章】 快適に暮らす環境づくり		55
都市環境／生活環境／住居環境		
<i>[Chapter 7] Building Strong Industries</i>		
【第七章】 活力あふれる産業づくり		59
農業／水産業／商業／工業		
<i>[Chapter 8] Administration & City Council</i>		
【第八章】 行政・議会		65
三役／各行政機関／自治会プロフィール		
<i>Data</i>		
資料編		71
<i>Photograph</i>		
写真で見るうるま市		82

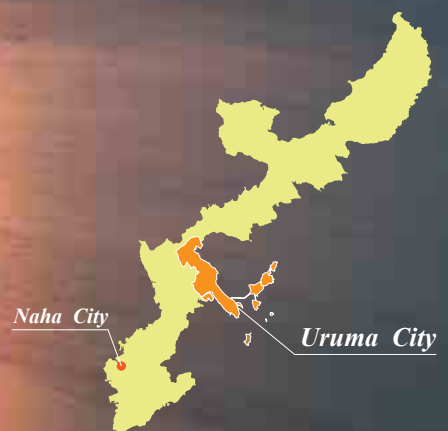


「広報うるま創刊号より」



うるま市の沿革

平成17年4月1日、4市町が一つになり「うるま市」が誕生しました。歴史深い世界遺産や緑豊かな自然、地域に根づく伝統文化―。新しいまちに生まれ変わっても、それぞれの個性を大切にしながら輝くまちづくりを目指していきます。



Overview of Uruma City

On April 1st, 2005, four municipalities merged into one to give birth to Uruma City, a new city replete with world heritages of historical value, rich nature, and traditional culture. The city will begin its history anew, but will treasure its unique characteristics to build a city to steer its people into a brighter future.

市章



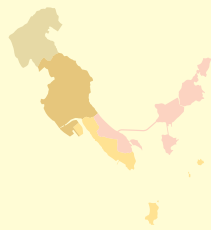
市章の意味

うるま市の「う」の文字を図案化したもので、赤は太陽、緑は大地、青は海をイメージしている。豊かな自然の輪の中で市民の融和と平和を表現し、金武湾と中城湾に面して発展する「うるま市」の明るい未来とさらなる飛躍を象徴する。

位置・地勢

本島中部に位置し東に太平洋を望む、島しょ地域と市街地が融合したまち

平成17年4月1日に具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併し誕生。那覇市より北東へ25km、沖縄本島中部の東海岸に位置しており、東に金武湾、南に中城湾の両湾に接している。東南に伸びる半島部の北方および東方海上には、有人・無人を含めて8つの島々があり、このうち5つの島は海中道路や橋によって結ばれている。



北緯26°22'45" 東経 127°51'27"
最も高い場所 石川岳 (204m)
最も長い川 天願川
(流域面積 31.61km²)
(流路延長 12.20km)

Location and Geography

Located in the central region of mainland Okinawa and overlooks to the east the Pacific Ocean, a city of small islands and urban land

On April 1st, 2005, four municipalities formerly known as Gushikawa City, Ishikawa City, Katsuren Town, and Yonashiro Town merged into one and Uruma City was born. It is located 25 km to the northeast of Naha City along the eastern coastline, in the central region of mainland Okinawa, and is adjacent to the Kin Bay to the east and the Nakagusuku Bay on the south.

A peninsula extends southeast, and over its northern and eastern seas spread eight inhabited and non-inhabited islands. Five of them are linked to the mainland by Sea Road and bridges.

歴史

個性豊かな街が一つになり、これから築く新しい市

豊富な水資源と肥沃で広い土地に恵まれ、かつて砂糖キビの生産量が沖縄一を誇り、太平洋戦争後においては外国語学校、文政学校及び農林学校などが続々創設され戦後沖縄の文教の中心地として発展してきた歴史を持つ具志川市。

戦中戦後において米軍により設置された避難民収容所や琉球政府の前身である沖縄諮詢委員会、更には民政府設置など戦中戦後の沖縄政治・経済の中心地として発展してきた石川市。

おもろそうしの中で「きむたか」(心豊か・気高い)と称され、大和の京や鎌倉にたとえられるほど繁栄が謳われ、特に城主阿麻和利の時代には最盛期を迎え、平成12年に世界遺産の指定を受けた勝連城を有する勝連町。

約2500年前の沖縄貝塚時代中期のもので沖縄最大の段丘集落跡といわれる「シヌグ堂遺跡」や尚真王の甥にあたる与那城王子朝原が授かった西原間切が平田間切、与那城間切と改名を重ね、沖縄県島嶼町制の施行など歴史的な変動を経験した与那城町。

この2市2町が合併し、平成17年4月1日に新市「うるま市」が誕生した。



URUMA city
Illustrated Map

うるま市 イラストマップ



歴史深い遺跡や名所。魅力あふれるうるま市を訪れてみて！

歴史深い世界遺産や貴重な文化財、自然あふれる公園やエメラルドグリーンビーチリゾートなど、見どころがたっぷりのうるま市。沖縄本島の中部に位置しているから、アクセスも便利。楽しみ方は自由自在です。自分なりのオリジナルコースを作っていざ出発！

Historic sites and remains abound. Don't miss them on your visit to Uruma!

Uruma City is home to a World Heritage site and other precious cultural heritages, as well as nature-rich parks and emerald green beaches. These sites are easily accessible since they are all located in the centrally region of Okinawa. Draw up your own plans and enjoy them as you like.

ピオスの丘②

宮森小学校
城島小学校
石川中学校
伊波城跡
伊波小学校
7 歴史民俗資料館

石川庁舎

石川高校
伊波中学校

うるま市って
とっても
大きいネ。



おじいも
ビックリしたな〜。
歴史的にも
スゴイな〜。



金武湾

芸術のまち
だからまつりや
エイサーも盛ん。
劇場もあるよ。



川崎小
安慶名闘牛場
うるま市役所
安慶名城跡
あげな中
あげな小
具志川商業高
6 野鳥の森自然公園
前原高
中部農林高
沖縄高等養護学校
兼原小
田場小
具志川小
具志川中
具志川高
高江洲中
高江洲小
市民芸術劇場
赤道小
中原小



与那城庁舎

1 海中道路

あ海
やは
は駅
し館
5

勝連城跡

与勝中

勝連庁舎

勝連小
与勝第二中
平敷屋小学校
ホワイトビーチ
4 屋慶名展望台

藪地島

来て！見て！感じて！うるま市

海中道路は
とっても景色が
キレイだね。
気持ちいい！



公園も
いっぱいあるから
いつでも
楽しいな！



伊計島

ビッグタイム
リゾート伊計島

⑧大泊ビーチ

伊計ビーチ

●伊計
小・中学校

平安座島

●泊城跡
宮城小
宮城中

宮城島

こんなに
いろいろな島が
つながって
いるんだ。



浮原島

●石油基地
●平安座小・中学校
●桃原小

●シルミチュー

浜比嘉島

南浮原島

ワンッ
ワンッ



●津堅小・中

津堅島



【①海中道路】

屋慶名と平安座島をつなぐ全長5キロの
道路。海風を受けて走るドライブは最高！



【②ビオスの丘】

100万坪の広大な敷地に広がる花と緑。
自然を満喫できるテーマパーク。



【③安慶名闘牛場】

収容人数1万人という、県内屈指の闘牛場。
全島大会等の大きなイベントも開催。



【④屋慶名展望台】

“沖縄の瀬戸内海”と呼ばれる海峡と連
なる山々が一望できるお薦めスポット。



【⑤海の駅あやはし館】

海中道路の途中にあるマーラン船をかた
どった観光施設。海の文化資料館も併設。



【⑥野鳥の森公園】

天願川近くの自然豊かな公園。多くの野
鳥が生息し、バードウォッチングに最適。



【⑦歴史民俗資料館】

うるま市指定文化財や古くから使われて
きた民具や生活用具を展示しています。



【⑧大泊ビーチ】

真っ白な砂浜と透明度の高さが魅力の大
泊ビーチ。マリンスポーツも満喫できます。



【勝連城にまつわる物語】

阿麻和利 の生涯

HERO
of
URUMA



混乱の時代に生きた勝連按司

阿麻和利は、農民出身で、勝連の麒麟児として民衆の人気を集めていました。ときの勝連按司の愚政に苦しんだ民衆が、阿麻和利を先頭に勝連按司を打倒し阿麻和利が勝連按司となります。若くして勝連の按司となった阿麻和利は、人々から慕われ、海外貿易によってますます力を付けました。その存在は、首里王府にとって、王権を脅かすほどの脅威であったため、時の琉球国王尚泰久は、自分の娘である百十踏場を嫁がせます。

【勝連城跡の特徴】

12～13世紀に築城されたといわれ、傾斜を利用し、美しく積み上げられた城壁がかつての繁栄を今に残しています。古の勝連城を真横から見た姿は、山原船に似ていたといわれています。

photo001. Katsuren-jō-site



World Heritage Katsuren Castle Remains

世界遺産 琉球王国のグスク及び関連遺産群

「勝連城跡」

うるま市が世界に誇る歴史的シンボル。



縄本島中部、勝連半島にある勝連城は、琉球王国の王権が安定していく過程で、国王に最後まで抵抗した有力な按司（あじ）、阿麻和利（あまわり）の居城。中国を始め、東南アジア、日本本土との海外貿易を行い繁栄を極めました。城は、四方に展望のきく比較的傾斜の急な孤立丘を取り込んで築かれており、外敵をいち早く確認できることや、南側に良港を控えていることなど、きわめて良好な立地条件を備えています。

勝連城跡の最も高い所となっているのが一の曲輪です。勝連城が栄華を誇った時代には、アーチ門が設けられていました。そこから得られる眺望は雄大で、勝連地域一帯を眼下に見、北には北部地域に連なる山々を、南には知念半島が海によこたわる全景をとらえられます。

Uruma City's World Renowned Historical Symbol

The Katsuren Castle on the Katsuren Peninsula, which is located in the central region of mainland Okinawa, was the residence of Amawari, a powerful lord who resisted the Ryukyu Kingdom until the end when the Kingdom was fast gaining control and stability. It prospered through trades with China, mainland Japan and other Southeast Asian countries.

The castle was built around an isolated hill with sharp slopes all around to afford a clear view of the four directions, which helped in spotting enemy presence from afar, and it also had an excellent port on the south side. The castle had all the geographical advantages one would want.

At the peak of the remains is a castle compound. In the time when the Katsuren Castle enjoyed glorious prosperity, there was an arched gate. A view from the compound is quite spectacular-one can see the entire Katsuren region, a chain of mountains in the north, and the Chinen Peninsula over the sea in the south.

photo002. Katsuren-jō-site



しかし1458年に起きた「護佐丸・阿麻和利の乱」で、護佐丸を倒し、その後王府打倒へ動き出した阿麻和利でしたが、その動きを妻である百十踏場に知れることとなり、逆に首里軍に滅ぼされてしまいました。

阿麻和利については諸説ありますが、一説によると北谷間切屋良（嘉手納町）で生まれ、小さい頃は身体が弱く、山に捨てられたといわれています。ひとりで生きていく中で知恵と力を付け、勝連に流れ着いたときには、村人たちに漁網をつくったりして、慕われるようになったとされています。

The Valiant Katsuren Ruler in the Turbulent Age

Amawari grew up in a farming family, and was popular among locals as Katsuren's child prodigy. One day, tired of the misrule of the ruler at the time, Amawari led the people to rise in revolt and defeated the ruler, becoming the new ruler of Katsuren himself. The young ruler was admired and respected by the people, and under his rule Katsuren became powerful through overseas trading. In time it became so powerful that it was a threat to the throne, causing Sho Tai Kyu, the king of the Ryukyu Kingdom at the time, to send his own daughter, Momotofumiakari, to be the young ruler's wife.

In 1458, Amawari toppled Gosamaru, the king's chief vassal, and set on to dethrone the king. His schemes, however, became known to his wife and consequently the king himself, and eventually Amawari was defeated by the Shuri forces.



【百十踏場】

史跡・遺跡・文化財

私たちの祖先が長い歴史の中で育て、伝えてきた文化遺産。

いにしへの時代からこの地に人々が生活し、そして独自の文化を築き上げてきたことを今に生きる私たちに語りかけてくれます。うるま市には、数多くの優れた文化財・伝統芸能等が残されており、これら先人が守り、育んできた文化遺産を、学術的、芸術的、歴史的遺産としてその価値を将来に伝える必要があります。

Cultural Heritages-From Generation to Generation

Cultural heritages tell us about the people in ancient times and how they came to create their own distinct culture.

Numerous cultural properties and traditional performing arts of significant value still remain in Uruma City. It is our responsibility to pass these cultural heritages on to the next generation, which our ancestors have nurtured and preserved for generations, for they are academic, performing arts, and historic heritages.

【伊波貝塚】



石川伊波区の石灰岩丘陵下に形成された、縄文時代後期（沖縄貝塚時代前期・約3500～2500年前）の遺跡です。大正9年（1920）、大山柏によって発掘・調査されました。学史的・学術的にも大変貴重で、伊波式土器の標識遺跡となっています。

【安慶名城跡】



安慶名区の亀甲原にあるグスクで、「大川グスク」とも呼ばれています。14世紀頃、安慶名大川按司が築城したと伝えられています。加工していない石灰岩で石垣を作り、円錐丘を囲っています。城門は南向きにあり、自然の岩を巧みに利用して石を積んでいます。

【仲原遺跡】



伊計島の中央部よりやや西側にある、縄文時代晩期（沖縄貝塚時代中期・約2400～2100年前）の集落跡。石灰岩で縁取りされた竪穴住居、石灰岩の上に粘土でつくられた遺構や墓などが発見され、当時の集落の規模や構成、住居の配置や構造を知る貴重な遺跡です。



【ヤンガー（万川）】



1849年頃に琉球王府時代に首里の石工、大工などによって造られたと伝えられ、沖縄の石造建築技術が優れているのを示している。泉の内部にはトンネル状に石を組み湧き口まで続いており、毎年正月に若水を取る習わしがあります。

【伊波城跡】



石川伊波区の集落の北側の高台に位置しており、標高約80mの石灰岩丘陵に築かれた単郭式の城跡。今から700年程前に伊波按司によって築城されたと言われています。東・南・西側には一重の石垣が築かれ、崖になる北側からは金武湾や石川岳が見渡せます。

【平敷屋タキノー】



18世紀初頭、琉球の和文学者・平敷屋朝敏が農民の水不足のために池を作り、掘り出した土を盛り上げてつくった丘と伝えられている場所です。丘からはホワイトビーチ、中城湾、沖縄市～知念半島を一望できます。現在は平敷屋公園と呼ばれ憩いの場所となっています。

【アマミチューの墓】



浜比嘉島内のアマジンと呼ばれる小島にある、琉球開闢（かいびやく）伝説の神シルミチュー・アマミチューが祀られていると伝えられている墓です。毎年の年頭拝みで比嘉ノロ（祝女）が中心となって豊穰、無病息災、子孫繁栄を祈願しています。

【シルミチュー】



浜比嘉島の比嘉の南南東の森の中にあり、琉球開闢（かいびやく）伝説の神シルミチュー・アマミチューが住んでいた場所と伝えられています。アマミチューの墓と同様に、年頭拝みが行われます。洞窟の中にある鍾乳石は、子宝の授かる霊石として拝まれています。

【兼箇段ジョーミーチャー墓】



墓庭の入り口が3つあることからジョウ（門）ミーチャー（3つ）と呼ばれる墓です。このような墓は県内でも珍しく、つくられた年代は分かりませんが、雍正2（1724）年洗骨した記録が残っていることから、約280年前頃にはすでに使われていたと考えられています。

【田場ガー】



田場区の東側にあり、切石積みでつくられた規模の大きい湧水です。ウブガー（産井）とも呼ばれ、古くから正月の若水、子どもが産まれたときの産水、生活や農業用水として利用されてきました。水神を祀った祠、池の水を溜めるマグサなどがあります。

【大田坂】



大田区と川田区をまたぐこの坂道は、琉球石灰岩を敷き詰めた石畳道で、幅員が2.3m、長さが約300mあります。琉球王府時代の宿道（しゅくみち・幹線道）の一部で、今から200年ほど前につくられたと言われています。坂を上ると眺めの良い大田バンタがあります。

【沖縄諮詢会堂跡】



沖縄戦後初の政治機構、沖縄諮詢会の会堂跡です。沖縄諮詢会は、1945年8月に設立され、翌年4月26日には沖縄民政、沖縄群島政府、琉球政府と変遷。戦禍に遭わなかったこの民家で沖縄の復興のために数多くのことを話し合い、決定していきました。

【東恩納博物館跡】



1945（昭和20）年、沖縄で初めて建設された博物館跡。当初は米軍人向けの博物館「沖縄陳列館」でしたが、沖縄民政府が発足した後、東恩納博物館と改名されました。後に首里博物館と合併し、1972年5月の本土復帰で沖縄県立博物館となります。

【石川部落事務所】



昭和7年ごろに建てられた石川区の戦前のムラヤー（現在の公民館）で、県内で現存するのは石川部落事務所だけ。終戦直後、石川市が誕生したときには市役所として使われました。現在も行事や会合などに使われ、地域住民に親しまれています。

【ガーラ砦】



昭和3（1928）年の大典記念（昭和天皇の即位記念）の年、ガーラー山を切り開いてガーラ川に架けられたアーチ型の石砦。長さ5m、幅2m、川底からの高さ5mに架設されており、上に重圧がかかるほど、橋は頑固になっていくといわれています。

うるま

教育、芸能、文化。
さまざまな分野で
活躍した
うるまの誇り。

Legendary Figures of Uruma City

人物伝

うるま市のみならず、沖縄全体の教育、文化、芸能の発展に寄与したうるまの偉人。

笑いで戦後を支えた小那覇全孝氏、沖縄県民政府の初代知事として再建に尽力した志喜屋孝信氏、農耕地の保全に努めた真境名安明氏、和文学者として名作を残した平敷屋朝敏氏。私たちの誇りである4人にスポットをあてます。

These legendary figures accomplished great things for Uruma City-but they made even greater contributions to the development of Okinawa's education, culture, and performing arts.

The spotlight is cast on four figures: Zenko Onaha provided laughter to lift the spirits of Okinawans in the post-war years, and Koshin Shikiya as the first governor of the Okinawa Civil Government, was instrumental in the rebuilding of Okinawa. Anmei Majikina played a crucial role in preserving cropland, and Chobin Heshikiya, a scholar of Japanese literature, left us many remarkable works.



Legendary
Figures of
Uruma City

人物伝

笑いで戦後復興を支えた、沖縄のチャップリン

小那覇 全孝(舞天) (おなは・ぶーてん) 1897~1969 琉球芸能の達人

Bu-ten Onaha



命のお祝いをしましょう

戦後、嘉手納より石川へ移住。本職は歯科医であったが、プロ顔負けの琉球芸能の達人。「舞天-ブーテン-」の愛称で呼ばれ、得意の漫談で一世を風靡した。終戦直後、廃墟となった沖縄で人々は失意に明け暮れていた。そんな中ブーテンは「生き残った者が元気を取り戻さないといけない。さあ、命のお祝いをしよう（ぬちのぐすーじさびら）」と、三線を片手に家々を訪ね歩き、虚脱状態にある人々に「笑い」と「ユーモア」で生きる希望を与え続けた。後に沖縄のチャップリンと称され、戦後沖縄の芸能と地域社会の復興に、多大なる影響を与えた。

Let's Celebrate Life

Onaha was a dentist who had extraordinary talent for Ryukyuan performing arts that dazzled even the professional performers. He moved from Kadena to Ishikawa after the war.

People called him "Buten" with affection, and his comic monologue caught the spirit of his generation. After the war, when Okinawans were dealing with an extraordinary sense of loss on a war-ravaged land, Buten visited door-to-door with a sanshin in his hand and preached: "survivors have to pick themselves up and go on. Let's celebrate life (Nuchinogusu-sabira)." He gave lethargic Okinawans hope and will to live through it all with laughter and humor.

He later came to be called "Chaplin of Okinawa", and his great influence on the post-war Okinawan performing arts and social restoration remains vivid to this day.

Legendary
Figures of
Uruma City

人物伝

沖縄再建に尽力した、人文学博士

志喜屋 孝信(しきや・こうしん) 1884~1955 沖縄民政府初代知事

Koshin Shikiya



住民の利益と幸せを願って

明治37年4月、沖縄県内ただ一人の奨学生として広島高等師範学校に入学。卒業後、教師として岡山県、熊本県で教壇に立ち、常に自信をもって生徒の指導にあたった。終戦後の昭和21年沖縄県民政府の初代知事に就任、戦後沖縄の復興に尽力した。昭和27年琉球大学の初代学長に就任、スタンフォード大学からドクター・オブ・ヒューマニティー（人道博愛主義者）の称号が贈られた。志喜屋氏は常に謙虚な態度で我が身の労苦に一片の見返りも求めず、多くの人材を世に送り、沖縄再建の仕事に命をかけ、立派な業績を残した。

Wishing Happiness for People

In April 1904, Shikiya enrolled to study at a higher normal school in Hiroshima Prefecture as a scholarship student, the only one from Okinawa. After graduation he taught in Okayama and Kumamoto Prefectures, always leading his students with confidence. After the war, he was appointed to be the first governor of the Okinawa Civil Government in 1946 and worked hard to restore his ravaged homeland.

He became the first president of the University of the Ryukyus in 1952, and was honored with a Doctor of Humanity title from Stanford University. Always the humble one, Shikiya never expected returns or favors for his deeds; he taught thousands of students and dedicated his life to rebuilding Okinawa.

沖縄芝居に影響を及ぼした、和文学者

平敷屋 朝敏(へしきや・ちょうびん) 1700~1734 和文学者

Chobin Heshikiya



才能に恵まれながらも、波乱の人生を歩む

薩摩支配下における苦難の時代、士族という身分におごることなく、農民をはじめとした弱い立場の人たちに温かい眼差しを向けることのできた沖縄近世随一の和文学者である。

1727年脇地頭としてこの地に配された平敷屋朝敏は、水不足に悩む農民のために溜池を掘削し、このときに掘り出した土を盛り上げて築いたのが「平敷屋タキノ」である。

恋愛讃美の代表的組踊「手水の縁」や、「貧家記」で知られ、明治以降の沖縄芝居に大きな影響を及ぼした一人である。1734年の「平敷屋・友寄事件」により失脚、「八付」(はりつけ)にされる。

A Literary Talent Born in a Tumultuous Time

When Okinawa was still under control of the Satsuma Clan and suffered from its misrule, Chobin Heshikiya, arguably the best scholar of Japanese literature in modern Okinawan history, was one of the rare few who helped the farmers and others in need.

Heshikiya was appointed to the position of land agent in 1727, and after seeing farmers deprived of water, he dug up holding ponds for them. The "Heshikiya-takino" mound is made from this dug-up dirt.

Heshikiya had an enormous influence on the production of many post-Meiji Okinawan plays, such as "Temizuno-midori", which is a major Kumi-odori dance that celebrates love, and "Hinkaki". He was brought down in the Heshikiya-Tomoyose Affair of 1734 and crucified as a result.

護岸整備の必要性を訴え続けた、立役者

真境名 安明(まじきな・あんめい) 1884~1935 県会議員

Anmei Majikina



安定した人々の暮らしを目指して

与勝の守り人と慕われる真境名安明氏は、医師として与勝地域の住民の健康管理を担う一方、昭和4年県会議員に当選。与那城、勝連地域は、長い海岸線に位置しているが、当時は護岸施設もなく沿岸地域の田畑は毎年のように来襲する台風や豪雨などに見まわれ、その被害は惨状を極めていた。真境名氏は、周辺地域の農耕地の保全を図るため堅固な護岸、堤防の築造対策に立ち上がり、昭和8年から実施された「沖縄県振興15年計画」を当地域に誘致し、与那城地域の海岸線全域の護岸工事、耕地整理事業、土木農道、河川工事等に尽力した。

In Search for Better Living Standards

Anmei Majikina, also called the "Guardian of Yokatsu" with affection, was a doctor in the Yokatsu region who was elected as a member of the prefectural assembly in 1929.

Although the Yonashiro and Katsuren regions are located along a lengthy coastline, there was no seawall back then and every year the farmlands near the coast were badly damaged from typhoons and heavy rainfall. To end this vicious cycle, Majikina stood up and built sturdy banks and seawalls for protection, and was instrumental in getting Yokatsu included in the "Okinawa Prefecture 15-Year Promotion Plan" of 1933. He also had a hand in projects like the seawall construction along the entire coast of the Yokatsu area, land consolidation, road construction, and river conservation works.